

# 最新事情

高校編②

地域と共に進化する

## 愛知県立鶴城丘高等学校

(愛知県西尾市)

明治42年の創設以来、地域社会で求められる人材を輩出してきた愛知県立鶴城丘高等学校（前身、県立西尾実業高校）。この間、地域の産業構造の変化を受けて、農業から工業、情報システムと教育内容の幅を広げてきた。平成16年には現校名に改め、地域のサービス経済の進展や進学志向の流れをも包含し、「総合学科」として新たに歩み出している。地域と共に、時代と共に、進化する同校の今をご紹介します。

### 生徒それぞれの特徴を生かし互いに切磋琢磨する

愛知県の中央を北から流れる矢作川流域の南端に位置する西尾市。人口約17万人。県立鶴城丘高等学校は明治42年、この地に郡立農蚕学校として創設された。以来102年。地域の産業構造の変遷をそのまま映し出すように、養蚕、



鶴城丘高校校舎



国際ビジネス系列の拠点となっているインキュベーションセンター内の実習室



農業、園芸、工業、生活科学、情報システムと幅を広げながら進化。前身の県立西尾実業高校は農業・工業系の専門高校として「西尾実業」の愛称で地域の人々に親しまれてきたが、平成16年に現在の校名に改め、総合学科の高校として新たな歩みを始めている。校長の杉山邦雄先生は総合学科への改組の背景をこう話す。

「この地域は、農業の先進地帯として発展してきました。作柄は、稲作中心からお茶（抹茶の原材料）、果樹園芸などと時代に合わせ変化してきましたが、現在も農業分野が占める割合は高いです。また、自動車関連をはじめ工業系の企業も大きな割合を占めています。その一方で、サービス分野も広がっており、商業教育に対するニーズも高まっていました。さらに、もう一つ、大学進学希望者が増えていることもありました。地域社会のこうした多様なニーズに応えるため、総合学科への改組が行われたのです。総合学科は従来からある農業・工業に、新たに商業を加えた専門系列と、大学進学を目指す人文・自然科学系列で構成されています。多様な志向を持つ生徒たちが共に学ぶ中でお互いに刺激し合い、切磋琢磨し合えるような活気のある校風を育んでいきたいと考えています」。

同校は1学年240人。就職希望者と進学希望者はほぼ半々、男女の割合もほぼ半々である。1年次では共通科目を学び、2年次から生徒の選択によって七つの系列に分かれる。クラスは、普通科が2クラス、農・工・商については選択

「これまでに付き合いのなかった新規分野の  
企業開拓に力を入れたい」と  
抱負を語る杉山邦雄校長



「秘書実務」担当の市川範恵先生  
(今年度から他校へ異動)



国際ビジネス系列主任の  
鶴田毅先生

科目は異なるが、ホームとなるクラスは1〜3  
年次まで混成である。さまざまな志向の生徒が  
交じり合うことにより、気付きや刺激が生まれ、  
それがパワーにつながるのと考えからだ。

「2年生になって系列に分かれると、クラスの  
全員が顔をそろえるのは、朝のホームルームと  
終業時だけになります。同じクラスのメン  
バーとしての親近感もあり、交流も盛んです。  
『あの系列の人はこんなに頑張っている、私た  
ちも頑張らないと』とよい意味での競争心も刺  
激されるようです」と杉山先生。

実際にさまざまなところで成果が生まれつつ  
ある。同校の活気ある取り組みについて、「国  
際ビジネス系列」(商業系科目)にスポットを  
当て、同校の今を見ていきたい。

## 資格に、各種コンテストに、 チャレンジ精神旺盛な生徒たち

国際ビジネス系列は各学年定員40人で、女子  
が大半を占める。同系列では、①流通経済(マー  
ケティング)、②国際経済(英語)、③簿記・会  
計、④情報処理の四つの分野を柱に、基礎・基  
本の習得に力を入れている。科目関連の資格取  
得にも積極的に取り組んでおり、生徒たちの意  
欲も高い。国際ビジネス系列主任の鶴田毅先生  
はこう話す。

「生徒の多くは、将来こういう方向に進みたい  
とイメージして入学してきます。それをより確  
かなものにするのが1年次の学びです。授業や  
進路指導を通し、生徒それぞれが自らの興味や  
関心、適性をしっかりと見極め、方向性を明確  
にしていきます。2年に進級するまでに、自分  
がどの系列を選ぶか決めなくてはなりませんか  
ら、真剣にならざるを得ません。それが土台と  
なって、2年次での系列選択につながります。

系列での専門分野の学びについては、生徒なり  
の納得感もあり、将来に役立つ学びとの思いも  
あるでしょう。前向きに積極的に取り組む生  
徒が多いですね。チャレンジ精神も旺盛です。  
資格取得はもちろん、学校外の催しにも憶せず  
チャレンジします。そこで賞でも取ったらしめ  
たもの。ますます勢いがつきますから」。

その好例が、地元信用金庫主催の「ハイスクー  
ル起業家コンテスト」にエントリーした「アロ

マキャンドルづくりの体験教室」だ。それが評  
判となり、文化祭でも体験教室を開催。さらに  
地元小学校PTA有志から「教えてほしい」と  
の依頼を受け、その交流の様子が地元新聞にも  
大きく取り上げられた。その他、JA主催の農  
業祭りや、日本福祉大学主催の「福祉機器アイ  
デアコンテスト」、金融広報中央委員会主催「金  
融と経済の明日」小論文コンクールへの参加な  
ど、実に多彩である。地域社会との交流を推進  
する学校の後押しも大きい。打てば響くよう  
な生徒たちの積極性があればこそだろう。

先にも紹介したように、2年次からは専門分  
野の学びになる。必修科目以外は自分で考えて  
科目を選択する。その際に、参考資料になるの  
が授業で目標としている資格だ。ガイダンスで  
は「この科目を取れば、この資格が取れる」(鶴  
田先生)と直接的にアピールするそうだ。その  
方が説得力があるからだ。

選択科目「秘書実務」(2年次、通年)の場  
合は秘書検定である。従って、受講を希望する  
生徒は、最初から秘書検定の合格を目指してい  
る。しかし、担当する市川範恵先生が生徒に求  
めるレベルは、その先を行っている。

「資格を取ることが第一の目的ではないこと。  
それを最初に言います。秘書検定では、必要と  
される資質やマナー・接遇、技能など5領域に  
ついて学びますが、いずれも将来、自分の役に  
立つことばかりです。1年だけの机上の学びに  
してしまつてはあまりにもつたいない。だから、

学んだことは確実に自分のものにしてほしいのです。それには普段から字を丁寧に書いたり、配布されたプリントをきちんとファイルしたりするなど、身近なところで実践することが大事。それをぜひ実行してほしいと伝えます」。

そして市川先生自らが模範を示す。「秘書実務」の授業では、身だしなみや服装、言葉遣いはもとより、あいさつやお辞儀、時間厳守など、隅々までビジネスモードに切り換える。先生自らが秘書になりきる構えだ。

### 秘書検定の学習を通して 社会人常識を身に付ける

生徒たちもネクタイの結び目やブラウスのボタンなど、身だしなみをチェックして授業に臨む。授業開始時、終了時にはそれぞれお辞儀(30度)とともに「お願いします」「ありがとうございます」ともに「お願いします」「ありがとうございます」といいます。授業中の言葉遣い、ファイル、提出物の期限を守ることなど、学んだことは授業で実践していく。さらに「授業外でも実践しています」と生徒たち。

3年生の神谷有紀さんは「先生や部活の先輩と話をするときは敬語を使うように意識しました。普段使わないと自然な会話ができないので。あいさつもこちらから率先してするようにしています」。

同じく3年生の石川結香子さんも「お茶の出し方を習う前は、そんなことできると思っていました。実際にやってみたら、お茶をお出しす

る向きとか、茶たぐの持ち方とか知らないことばかりでした。教わってからは家でもちゃんとしたりやり方でお茶を出すようにしています」。

二人とも卒業後は、事務職を希望している。将来必ず役立つと思いい、この授業を選択したと言う。「社会人になって恥をかかないよう、授業で学んだことをしっかり身に付けたい」と口をそろえる。市川先生の熱意は、生徒たちに確実に伝わっているようだ。

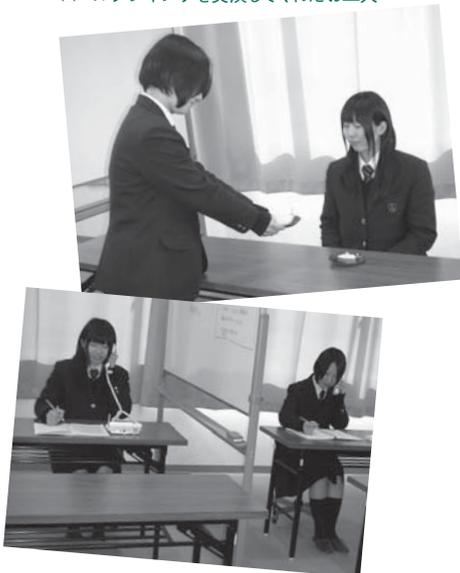
この授業では、全員が11月の秘書検定3級にチャレンジする。昨年度の秘書検定団体優秀賞を受賞するなど、合格率も高い。「秘書は勝手な判断をしてはいけない」「いつでも連絡を取れるようにしておくのが秘書の仕事」など、普段の学びの中で検定ポイントが押さえられているので、検定対策としては直前に集中して過去問題を解いていく程度という。

授業としては秘書検定2級まで視野に入れて学んでいるため、3年生になってから2級にチャレンジする生徒も多い。合格すれば、増加単位として認められる仕組みになっている。神谷さんも、石川さんもそのつもりだ。二人は他にも、簿記、情報処理、英検、電卓などの各種資格を取得しており、3年次にはさらに上位級にチャレンジしたいと意欲的だ。

厳しい経済状況下、新卒採用は全国的に厳しい状況が続いているが、同校の昨年度の就職率は100%を達成している。校長の杉山先生はこう話す。

「求人件数の減少はありますが、幸いなことにまだ選べる段階です。ただ、事務職希望の生徒が多いので、少ないパイを取り合う状態です。そこを何とかしたい。食品やサービス業など、これまでお付き合いのなかった企業を回ろうかと考えています」。校長先生のエネルギーがうまく行動と生徒たちのひたむきな頑張りがうまくマッチしているようだ。

「秘書実務」で実習した電話応対、お茶出しのロールプレイングを実演してくれたお二人



秘書検定3級を取得した  
(左から) 石川さん、神谷さん